

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp

研修講座 外国人児童生徒教育②

「『やさしい日本語』で教科書を教えるには」

【講師】 伊賀市外国人児童生徒日本語指導コーディネーター 船見 和秀先生

8月17日（木）、講師に伊賀市外国人児童生徒日本語指導コーディネーターの船見和秀先生をお迎えし、研修講座「外国人児童生徒教育②」を実施しました。

初めに、日本語を習得する上で難しい言語の特徴をグループになって話し合い、やさしい日本語について考えました。船見先生からは、初級レベルの日本語（日常会話ができるレベル）で話す時のポイントとして「は：はっきり言う」「さ：最後まで言う」「み：短く言う」の「はさみ」の法則が大切であることを学びました。

その後、日常会話や学校での授業・生活において、普段何気なく使っている日本語の表現や言葉について着目し、どの言葉が外国につながる子どもにとって難しいのか、やさしい日本語に置き換えるとしたらどんな言葉が適切かについて考えました。以下が具体的に考えた短文の一例です。



具体例1：元の数量に割合をかけたら、欲しい数量を求められます。

↑
「かけざんをする」

↑
「計算する」

船見先生からは、場面ごとに言葉の意味を確認すること、具体物とともに短い言葉で具体的に伝えることが大切であることを学びました。



後半は、グループに分かれて、三重県立高等学校学力検査の問題文をやさしい日本語に置き換えたらどのような言葉が適切かについて意見交換しながら考えました。船見先生からは、日本語指導のポイントとして、なるべく短い文にすること（わかりやすい言葉に置き換えること）、箇条書きに書き換えてみる、図に示すことなどが大切であることを学びました。日頃から「やさしい日本語」を心がけることは、外国につながる子どものみならずすべての子どもたちにもわかりやすくなることから改めて日々の授業について振り返る機会となりました。

アンケートより【一部抜粋】

- ・自分が何気なく使っている日本語の言語としての特徴を改めて意識するきっかけになりました。保護者や児童にとって分かりやすい言葉に言い換えたり、文化の違いを考慮したりすることをこれからも気をつけたいと思います。また、小学校で勤務していますが、その先の高校・大学のことも視野に入れてどのような日本語力をつけていくか、見通しを持って学習できる環境を整えていきたいと感じました。(小)
- ・高校の入試問題をリライトすることで自分自身が外国籍の生徒や保護者と接する時にいかに易しくない日本語を使っていたかを振り返ることができました。(中)